

「大坂の史跡を訪ねて」連載39回目

オサタニ シノブ
長谷 吉治

【大坂の史跡(紹介漏れ)】

前回に続いて、これまでの連載における、大阪市内の紹介漏れをご紹介します。

1 帝塚山古墳 2 明治天皇駐蹕碑

住吉区帝塚山西2-8

- ▶ 現在は、帝塚山古墳(前方後円墳)は一つだけしかありませんが、明治時代までは、「大帝塚」と「小帝塚」と呼ばれる大小二つの古墳がありました。
この地に館を持っていた古代豪族の伴氏の大伴金村とその子の墓とされ、4世紀末～5世紀初頭に造られたと推定されています。
「大帝塚」の方は、現在の大阪市立住吉中学校の敷地となり、「小帝塚」の方が帝塚山古墳として現存しています。帝塚山は、元はたんに「塚」または「手塚」「手塚山」と呼ばれていました。阪堺線の塚西駅の名称は、塚の西という意味でその痕跡を伝えています。
明治天皇が明治31年(1898)11月17日、大阪に行幸され、かつての南朝の後村上天皇の御所だった住吉行宮に滞在し、当地に足を運んだことを機縁に「帝塚山」という名称に改められたとされます。



明治天皇駐蹕碑



帝塚山古墳の石碑と案内板

史跡 帝塚山古墳

二段築成の墳丘をもつ前方後円墳で、築造当初の姿をほぼ伝える、市内唯一の古墳である。

復元される古墳の大きさは、墳丘長約120m、後円部直径57m、高さ約10m、前方部幅50m、高さ約8mである(「新修大阪市史」)。幅約20-30mの周濠の痕跡が認められるが、完周はしていなかったと推定されている。

石室・石棺などの内部構造は不明であるが、円筒埴輪列や墳丘を覆っていた葺石などが確認され、出土の埴輪片の特色から4世紀末～5世紀初めに造営されたと考えられている。なおこの付近には、かつて大小の古墳が点在していた。

墳丘上にある巨碑は、明治31年(1898)に行われた陸軍特別大演習を、明治天皇がここから統監されたことを記念して、住吉村が建立したものである。

平成13年4月

財団法人 住吉村常盤会

3 帝塚山御野立所址 4 明治天皇聖蹟碑

住吉区帝塚山西2-10

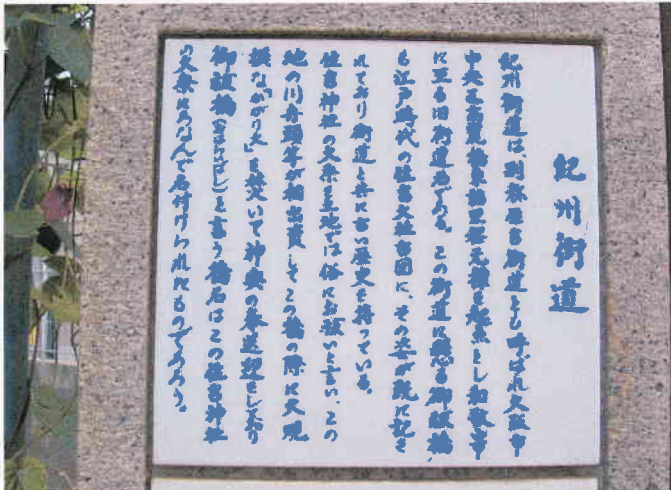
- ▶ 明治期、この辺りに陸軍の大演習所がありました。
明治31年(1898)11月17日、陸軍特別大演習に行幸の際、当時御野立所に臨御親しく演習を御統裁されました。



5 旧紀州街道

- ▶ 紀州藩や岸和田藩が参勤交代のときに通った道で、それは大坂と和歌山を結ぶ街道でした。道としては鎌倉時代からあったそうですが、豊臣秀吉の頃、住吉大社へ参詣するための街道として整備され、その後、江戸期に入りさらに整備されました。

阪堺電気軌道阪堺線の走る道路



6 六道の辻 7 閻魔地蔵堂

住吉区東粉浜3-5-11

- ▶ 六道の辻には、6本ではなく7本の道が集まっています。元は6本だったそうです。その一角に「閻魔地蔵堂」があります。閻魔地蔵堂は、明治初年まで住吉大社の境内にあった「住吉神宮寺」という大きなお寺のお堂のひとつです。住吉神宮寺は明治の廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)で無くなり、現在は住吉大社境内に碑が建てられています。閻魔がなぜ地蔵かといいますと、古くから閻魔は地蔵菩薩の化身といわれているからとのこと。

「六道の辻」は京都の松原にもあります。地名の由来は、その昔におびただしい人骨が出土したため髑髏原といわれていた時期があり、この髑髏、「どくろ」が転訛して「六道」になったのではないかとわれています。



8 弾薬製造所跡

住吉区帝塚山西4-15-12~14

- ▶ 土佐藩住吉陣屋には西洋の大砲があり、砲術の訓練が陣屋の敷地内で盛んに行われていたそうです。弾薬の製造は、砲術家田所某(田所壮輔=谷嘯太郎(じゅたろう)と思われる)が主となり、人を使ってこのあたりで製造を行っていました。郷土史家 村田 保氏によると弾薬製造所は「閻魔地藏堂裏の東部の墓地付近」にあったとされ、現在のこの辺りに該当します。



9 生根神社

住吉区住吉2-3-15

- ▶ 境内に天神社も併祭しているので、一般に「奥の天神」といって親しまれています。住吉大社の摂社となっていました。明治維新後分離しました。豊臣時代には淀君の崇敬社にて、片桐勝元が現存の本殿を寄進されています。また、徳川時代においても、徳川綱吉将軍が修理を命じ奉幣しています。



10 住吉神宮寺跡

住吉区住吉2-9(住吉大社)

- ▶ 住吉神宮寺は、天平宝字2年(758)に孝謙天皇の命により創建されたと伝えられています。天台宗に属していました。明治初年の神仏分離令によって廃絶となりました。

